

国語 第1学年 はをへを つかおう 検討会の想定問答

指摘 1：この教材で身に付ける力は何か。

返し：助詞の発音と書き方の違いを確かめ、文の中で「は・を・へ」を使う。B(1)ウに関わる学習として、直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録で言葉の扱いを確かめる。

指摘 2：学習できたと判断する根拠は何か。

返し：評価では、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫しているかを、直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

指摘 3：活動だけで終わらせないために何を残すか。

返し：直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録を残す。完成後の見た目だけでなく、どの言葉を選んだか、その理由を本人の説明と照合する。

指摘 4：つまずきにはどう対応するか。

返し：間違い探しだけにして意味を確かめない、教師の正答を写して直す。その場合は、独自例「ぼくわ こうえん え いきました」を声に出して読み、発音と助詞の書き方を分けて確かめる。文末に指を置いて区切りを確認し、児童自身の文にも同じ観点を使う。

指摘 5：本時の問いはどのように働くか。

返し：「声に出した音と、文に書く文字の違いはどこですか」に一度答えてから活動に入り、確かめた後に答えを比べる。教師の予定した文と一致するかではなく、言葉と理由の対応で判断する。

指摘 6：友達と違う考えはどう扱うか。

返し：読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。友達と同じ表現に直すことを目的にせず、伝わったことと確かめる必要があることを区別する。

指摘 7：態度の評価は参加の様子で決めるのか。

返し：参加回数や声の大きさだけで決めない。学習の見通しをもち、困った箇所を確かめて方法を試した記録から、粘り強さと自分の学習の調整を捉える。

指摘 8：端末や特別な道具がなくても進められるか。

返し：直す前の文、直した文、直した理由を並べた記録は紙・板書・口述の記録で扱える。端末がある場合は見直し前後を保存して比べる。道具の操作の上手さを国語の評価と混同しない。

指摘 9：配当時間を変更する時は何を確かめるか。

返し：全3時間は光村図書の公式年間指導計画に基づく。本案の各時の配分は授業案であり、学校の年間計画に合わせて組み替える際も、目標と評価を確認する活動を残す。

指摘 10：教科書本文を配布物に載せていない理由は何か。

返し：児童と教師は使用中の教科書を手元で参照する。本案には独自の問い、活動の手順、記録の観点を示し、本文や台詞、挿絵、教科書の問題文を複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

